

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 萩の最明寺を訪ねる

講師 佐野 通明

平成25年9月15日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 塩江町安原下

香東川は三木町津柳を源とし、阿蘇山脈の大滝山や竜王山に発した樺川、内場川などの支流を合わせながら、蛇行して瀬戸内海に注いでいる。二級河川であるが綾川に次ぐ長い河川である。このあたりは、高松市塩江町の北部に位置し、香東川の流れに沿って概ね国道一九三号線が走っている。周辺には高松市役所塩江支所、安原小学校、最明寺、教福寺、西谷八幡神社、音川城跡などがある。

観月橋からは、香東川に削られた岩石や橋の下流には大きな岩石や松風橋（吊り橋）が見える。国道一九三号線から分かれて南に進むと奥野千本桜、柏原溪谷へと続く。県道高松香川塩江自転車道の起点は観月橋の右岸で、ここから岩崎までは、ほぼ塩江温泉鉄道（ガソリンカー）の軌道跡を通っている。途中に遺構である橋梁の上をとおり、香東川に沿って郷東橋へとつながっている。観月橋の下には池西幹線の関井堰があり、その水路は香東川の左岸に沿って鮎滝から香南町の高地を通り、綾川町畑田まで潤している。

周辺は山に囲まれた段々の田畑が点在し、春は新緑、初夏はホタル、秋は紅葉、萩など四季折々の景観を楽しむことができる。岩肌を流れる川のせせらぎが響き、山並みにかこまれたこの情景は、自然と共に暮らす原風景が感じられる。

2 藤澤 東咳とうがい

藤澤東咳は名は甫通称を昌蔵と呼び、東咳と号した人で、寛政六年（一七九四）十月十三日に塩江町安原下字中村の農家に生まれた。

小さいときから学問が好きで、六歳の頃から母に文字を教えられたが、野に出て草を刈るときにも、暇があれば鎌で土の上に字を書いて覚え、川で遊ぶときも石に字を書いて練習したので、近くの川原の石は字を書いたものばかりになったという。学問がよくできるので、九歳の頃、高松に出て香南町出身の中山城山の家に住み込んで、家事を手伝いながら漢学を学び、後には先生の代わりに弟子を教えるほどまでになった。十八歳のときから片原町で近くの子供に読書を教え始めたが、二十五歳のときには九州長崎に行つて四年間なお勉学に励んだ。

高松に帰つた後は、木田郡古高松の揚分潮（通称文平、後小四郎）の家について、その子辰之助（のち晋十郎といい小四郎と改めた）を教育すること三年に及び、文政七年（一八二四）三十一歳のとき、大坂に出て淡路町に私塾「泊園書院」を開き、多くの弟子を教えた。

元治元年（一八六四）、七十一歳で亡くなりますが、その教えは子の南岳、孫の黄鵠・

黄坡と受け継がれた。

3 最明寺の歴史と萩

行基菩薩が文武天皇の大宝元年（七〇一）に来られ、薬師如来の本尊を刻んで安置し、如意輪寺と称した。その後嵯峨天皇の弘仁十二年（八二一）に弘法大使が来て千手観音を刻んで安置したという。また文応元年（一二六〇）に北条時頼が諸国修行の途中、ここに立ち寄り伽藍を再建して寺名を最明寺と改めたと伝えられている。天正十三年（一五八五）長宗我部元親の兵火にかかった。そして明治十二年（一八七九）の火災により焼失した時、この音川の地に仮に再建して移り、そのまま現在に至っている。寺宝は本尊の木造薬師如来立像、木造千手観音立像、涅槃像、両界曼荼羅、鰐口など。



最明寺の萩

梵鐘は先の大戦で供出したため昭和二十一年（一九四六）に境内で塩江町樺川の人びとによる「タタラ」により、鑄造されたものである。

土曜の丑の日に病伏として「きゅうり加持」や土砂加持、流水灌頂などの行事がある。

当山第四十一世明圓により境内にあつた優美に咲く「宮城野萩」を境内に株分けして、増殖に努力して萩の名所の基礎をつくつた。その後第四十二世明澄に至り一層の増殖により、境内全面に繁茂して萩の名所となっている。可憐な萩の観賞のため文人墨客、茶俳人が後をたたない。讃岐百景「萩の名所」となっている。

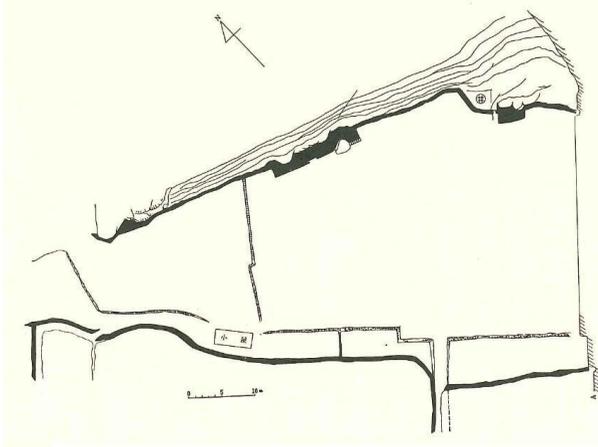
音川で 心清めて 最明寺

瑠璃の庭にぞ 萩の花山

4 松平家の音川別荘跡

最明寺の北方百メートル余りの一段高い平地で、後ろに山を背負い、南面には城のような築き方の石垣が見られる東西約七十メートル、南北は西の方で十メートル、東の方で三十メートルの地と考えられる。山際に堀が残っている。また、山際には幹周り一・七メートルほどのカエデがあり、秋の紅葉はみごとである。

音川の別荘は岩部の別荘とともに藩主の夏季避暑用のもので、松平頼重は早くは寛永十九年（一六四二）にここに来ていた。「英公日曆」に「七月二十二日香東川へおいでなさられ、道にて鳥三つ鉄砲にて遊ばされ、それより香東川にて鮎御取り、音川まで御座なさられ、夜五つお帰り、御殺生の鮎七百ほど也」とある。また承応二年（一六五三）には「音川に遊び新館に宿す」とある。寛文十年（一六七〇）八月には意図姫、頼母、図書、亀千代、竹松の五人の子女を連れて、泊まったなどの記録があり、たびたび音川を訪れている。



音川別荘跡



音川別荘跡のカエデ

5 音川城跡

城は標高二六〇メートルの香東川右岸の小山の上部に築かれていた。阿波との山越えルートのひとつである塩江街道を見通す位置にあり、このために築かれた。この城は非常に小さいが主郭を半周する横堀が構築され、香川県では貴重な存在であるという。平成十年の踏査により、曲輪、堀、土塁などの遺構が良好に残っている。

この地は香東川まで小尾根が突き出て川を狭め、また見通しをさえぎっている位置に関城があり、時期は天正七年（一五七九）で対岸の音川城との呼応という点でも好適の地である。関城跡は田畑となっているため遺構は見られない。そして現在、関という地名が残る地点は、かつてはこの尾根裾をまいて川沿いに塩江街道が通っていた。

川田家の宗家景兼の子景信は川田信濃守と号し、安原下音川に移り住み、家の北方山頂に小城を築き、音川城と称し、これに拠った。景信の子景次は主膳正と号し、孫景盛は永禄四年（一五六二）に天霧山の堀江の戦いで戦死したと川田弥一家所蔵の「平姓川田氏系図」にみえる。

音川城跡

所在地 香川郡塩江町安原下字音川

立地 丘陵先端、標高二百メートル、比高七十メートル

現状 山林

遺構 曲輪、堀、土塁

城主 川田信濃守景信

時期 不明

関城跡

所在地 香川郡塩江町安原下字関

立地 丘陵先端、標高百三十四メートル、比高十五メートル

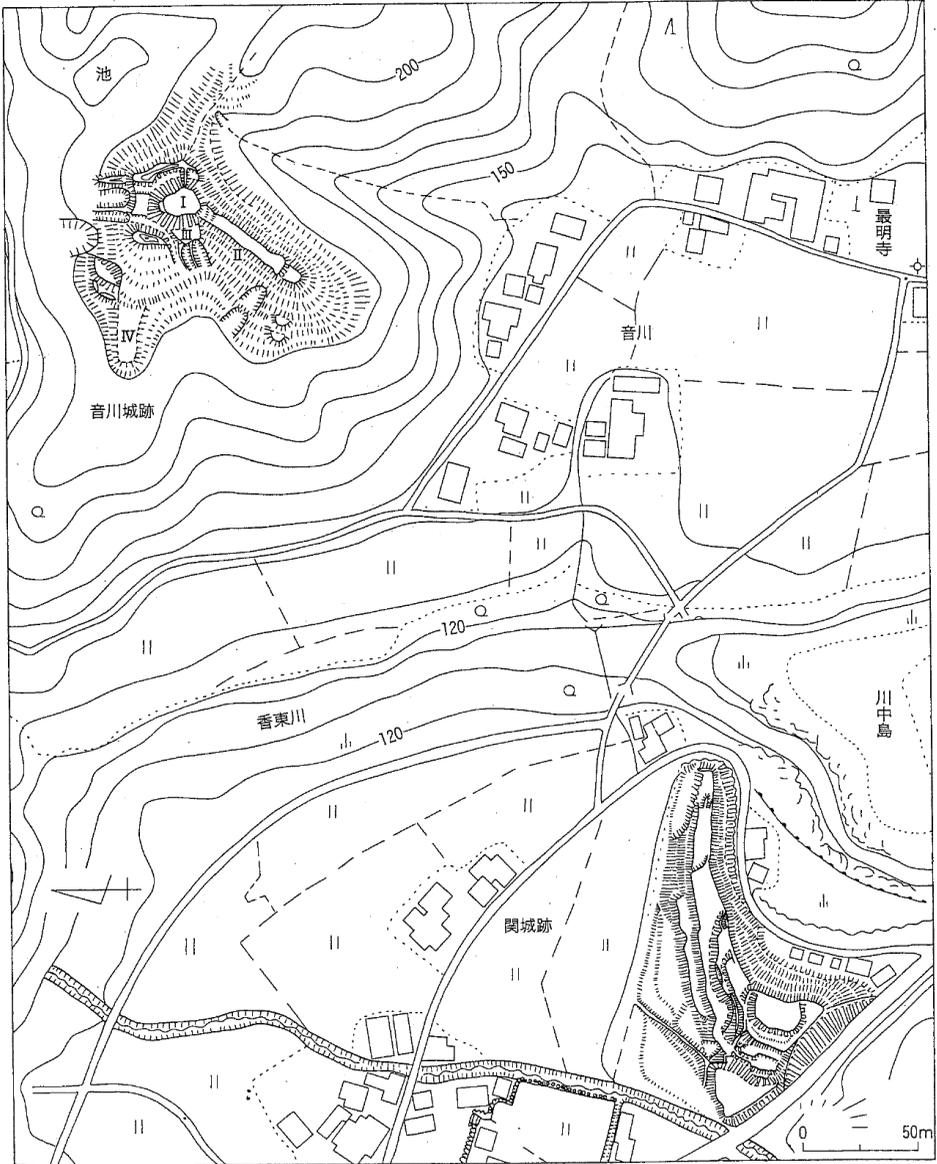
現状 田畑

遺構 なし

保存 消滅（田畑化・一部埋没？）

城主 川田信濃守

時期 天正七年（一五七九）



音川城跡・関城跡縄張り図(1/2,500、原図：松田)

6 関所跡

塩江街道は高松城下から仏生山、塩江、内場、相栗峠越の阿波と讃岐を結ぶ重要な道であり、阿波へは讃岐米、塩や魚介類が、阿波からは薪炭、木地、藍玉などの物資の交易があり、人びとの往来も多く関所が置かれていた。関所では、手形や各種産物などの検査や監視をしたという。また、金毘羅や法然寺の参詣道という宗教的な意味もあった。

寛永十年（一六三三）の讃岐国絵図には百相村―鮎滝―内場―相栗峠の安原往還が高松城下と国境を結ぶ路線としてすでに存在している。元禄十三年（一七〇〇）の蜂須賀国境絵図でも相栗峠の路線が描かれており、阿波藩にとつてもこの道筋は讃岐と阿波を結ぶ重要な道であったことがわかる。関という地名もここからきているものと考えられる。

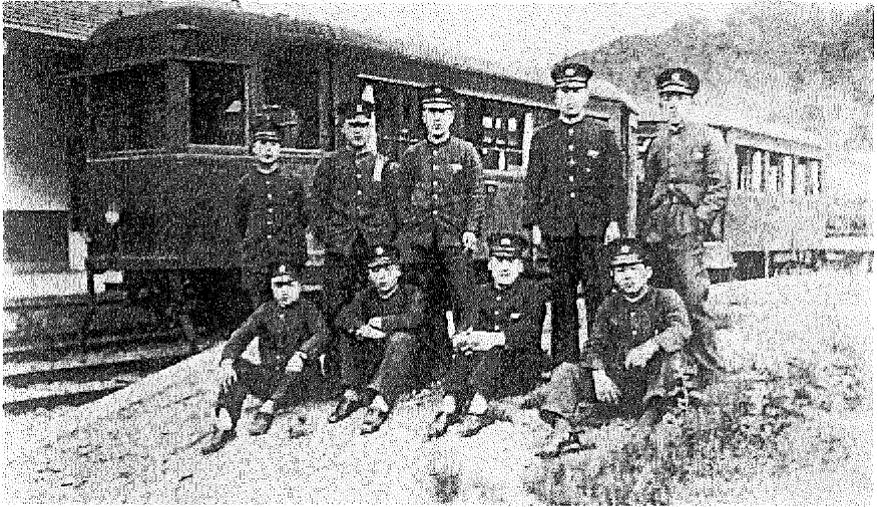
7 塩江温泉鉄道（ガソリンカー）

昭和四年（一九二九）に高松琴平電気鉄道の仏生山駅を起点として営業された。仏生山から塩江間一六・一キロメートル、運転所要時間四十分、車賃は四十銭であった。仏生山から舟岡・浅野・伽羅土・川東・岩崎・鮎滝・関・安原・中村・岩部

の各駅を経て塩江を終点とした。車輛は川崎車輛で製作したガソリンカーで四十人乗り、三十八馬力のエンジンは米国アンドリュース・アンド・ジョージ社製を搭載し、ガソリンカーとしては前進・後進のできる車輛であった。座席はロングシートとつり革があり、その小さな車体は「マッチ箱」と呼ばれていた。

定期便は一両で運行されていたが、団体客や塩江の花火大会、菊人形展、少女歌劇団の演劇など乗客の多い時には、臨時便があったという。また春は奥野千本桜、夏は蚩狩、鮎釣、鵜飼、納涼、秋は紅葉狩、キノコ狩り、冬は忘年会、新年会、大滝山のスキーなどと盛んに観光客を誘致していたという。仏生山で琴平電鉄と接続されて高松中心部との交通は大いに開け、中等学校に進学するものが急速に多くなった。しかし、昭和十六年戦争の激化によってガソリン統制が実施されて燃料供給は難しくなり、その上レールなどの資材は徴発され全線廃止となった。

現在はトンネルが伽羅土、中村、小矢谷、岩部に、橋梁が関、中村、岩部などに残っている。



ガソリンカー



8 関駅跡

ガソリンカーは仏生山から岩崎までは田園風景の広がる地域を走っていたが、岩崎からは香東川右岸沿いに山間部へと路線は延びていく。岩崎からの線路跡は高松香川塩江自転車道として整備されて観月橋に続く。香東川沿いに走っていたガソリンカーは、関付近で始めて香東川を渡る。渡ってまもなく行くと第二橋梁。その橋のたもとが「関駅跡」で、香東川自転車道の少し西側である。関駅跡を過ぎて再び橋を渡ると最明寺がすぐ目の前。

ガソリンカーが走っていた頃は毎日のように門前市があり、特に大きな行事や萩の季節には参道前に「臨時駅」が置かれ、参拝客の人びとで賑わったという。市では綿菓子、タニシ、飴などの屋台があり、高い台を設えての餅投げ、力持ち（長尾寺の餅運びと同じもの）などがあり関駅の付近は大勢の人出となっていた。関駅付近には臨時の自転車置き場があったほどである。

【参考文献】

新修 塩江町史 平成八年八月 塩江町

塩江の四季 第四集 昭和六十二年四月 塩江町文化財保護研究会

60年のあゆみ 昭和45年十一月一日 高松琴平電気鉄道株式会社

80年のあゆみ 昭和45年十一月一日 高松琴平電気鉄道株式会社

琴電100年のあゆみ 森 貴知

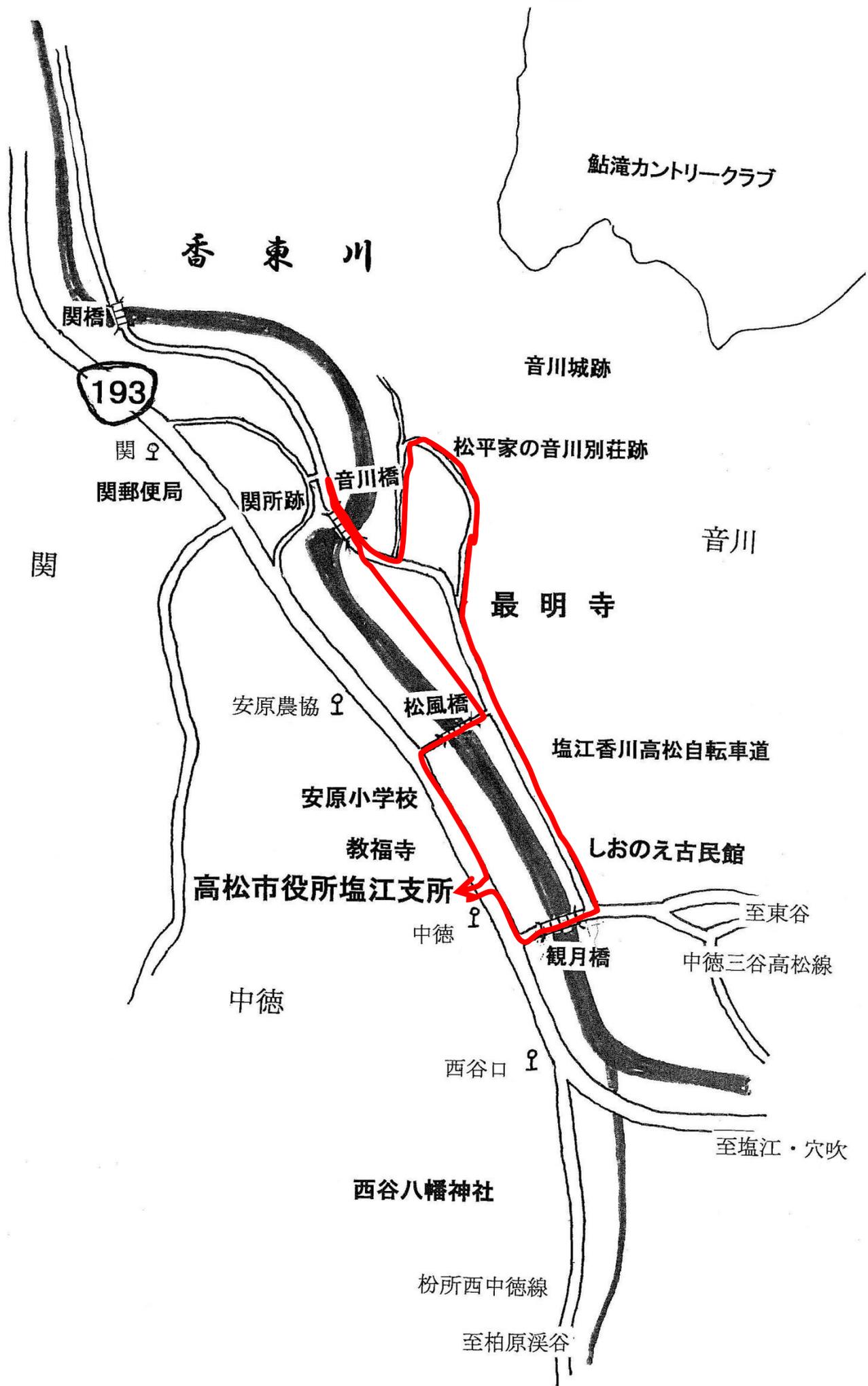
香東川と暮らし 平成二十二年三月三十一日 高松市香川町文化財保存会

香川県中世城館跡詳細分布調査報告書

平成十五年三月（二〇〇三） 香川県教育委員会

萩の寺 福寿山 来迎院 最明寺

文化たかまつ 新春号 通巻四十五号 平成十九年一月一日 高松市文化協会



香東川

鮎滝カントリークラブ

関橋

193

関
関郵便局

関所跡

音川橋

松平家の音川別荘跡

音川城跡

音川

最明寺

安原農協

松風橋

塩江香川高松自転車道

安原小学校

教福寺

しおのえ古民館

高松市役所塩江支所

中徳

観月橋

至東谷

中徳三谷高松線

中徳

西谷口

至塩江・穴吹

西谷八幡神社

粉所西中徳線

至柏原溪谷

9月15日（日） 塩江町からの復路

◆ことでんバス【塩江線・上り】

（中徳） （安原農協） （関） （瓦町） （高松駅）

11:49→ 11:50 → 11:51 → 12:28 → 12:41

次回のふるさと探訪は・・・

テ－マ 久米池周辺の古墳と社寺を訪ねる（予定）

と き 平成25年10月27日（日）

9:30～12:00頃

集合場所 未定（10月15日号の広報たかまつ、高松市
ホームページでご確認ください。）

講 師 末光 甲正さん（川添文化協会副会長）

☆広報「たかまつ」10月15日号に開催案内を掲載します
ので、ご覧ください。

☆雨天決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課
（TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお
知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の
端を一人で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつ
けましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。